

【資料7】 中津市立三保小学校 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた、育成を目指す資質・能力の系統表

平成29年 8月

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	10の姿の説明	資質・能力の三つの柱	低学年視点	低学年	観点	中学年		高学年		全学年
						3年生	4年生	5年生	6年生	
ア 健康な心と体	幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。	何を理解しているか、何ができるか  (生きて働く「知識・技能」)	1. 学校、家庭、地域	(1) 学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる (2) 家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる (3) 自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる	知識	地域の高齢者施設の暮らしや地域の高齢者の思いを知る。	地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力を知る。	地域に残る伝統芸能や地域の伝統文化の継承に力を注ぐ人々の思いを知る。	地域に残る歴史的遺産及び地域の歴史的遺産の保存や継承に力を注ぐ人々の思いを知る。	資質・能力の三つの柱に沿って自分の学びを自覚的にふり返る
イ 自立心	身近な環境に主体的に関わりいろいろな活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思い巡らしなどして、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持って行動するようになる。	理解していること・できることをどう使うか  (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)	2. 身近な人々、社会及び自然	(4) 身の回りにはみんなで作るものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる (5) 自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く (6) 遊びの面白さや自然の不思議さに気付く	考えるための技法	思考ツールを使うことによってよさを実感し、順序付ける・比較する・分類する・理由付けする・関連付ける・多面的に見る・多角的に見る・見通す・具体化する・抽象化する・構造化する等を身に付ける。				
ウ 協同性	友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる		3. 自分自身	(7) 動植物は生命を持っていることや成長していることに気付く (8) 身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる (9) 自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	コミュニケーションスキル	①順序を考えて話す。 ②一番言いたいことは何かを考えながら聞く。 ③地域の方にあいさつし、丁寧な言葉で話す。	①自分の考えを入れながら話す。 ②自分の考えと比べながら聞く。 ③地域の方と場に応じた言葉遣いで話す。			
エ 道徳性・規範意識の芽生え	してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。		1. 学校、家庭、地域	(1) 学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える (2) 家庭における家族のことや自分で、できることなどについて考える (3) 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える	課題の設定	学校の特性や地域との関わりを通して関心のある課題を作り、解決の方法を考えることができる。	活動の意図や目的を明確にして自分で課題を作ることができ、解決方法や手順を考え、見通しを持って計画を立てることができる。			
オ 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとして、情報を適切に取捨選択などして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。	2. 身近な人々、社会及び自然と触れあったり、関わったりすること	(4) 公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりする (5) 自然や行事の違いや特徴を見付ける (6) 遊びや遊びに使う物を工夫してつくる (7) 動植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心を持って働きかける (8) 伝えたいことや伝える方法を選ぶ	情報の収集	教師の支援により、手段を選択し情報を収集する。	自分なりの手段を選択し、必要な情報を収集する。				
カ 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。	3. 自分自身	(9) 自分のことや支えてくれた人々について考える	整理・分析	課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。	課題解決に向けて、目的に沿って考えることができる。				
キ 自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、好奇心や探究心を持って思い巡らし言葉などで表しながら、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみを持って接し、いたわり大切にすることを身につけるようになる。	どのよう社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか  (学びを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)	1. 自分と人や社会	(1) 楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする (2) 自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする (3) 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々に親しみや愛着を持ち、適切に接したり安全に生活したりしようとする	主体性	課題解決に向け、探究活動に向け進んで取り組もうとする。	目標を持って、課題解決に向け、探究活動に向け進んで取り組もうとする。			
ク 数量・図形、文字等への関心・感覚	遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりして、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。	2. 自分と自然	(4) 公共物や公共施設を大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする (5) 自然や季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとする (6) みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする (7) 生き物への親しみを持ち大切にしようとする (8) 進んで触れあい交流しようとする	将来への意欲	探究的な活動を通して、自分の生活を見直しこれからの生活を意欲的に送ろうとする。	探究的な活動を通して、自己の生活や生き方を考えこれからの生活や将来に目標を持つことができる。				
ケ 言葉による伝え合い	言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたことを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。	3. 自分自身	(9) これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いを持って、意欲的に生活しようとする	協働性	友だちの意見を比べたり取り入れたりしながら、協力して学び合うことができる。	友だちと力を合わせて活動したり、他者の立場を尊重しながら学び合うことができる。				
コ 豊かな感性と表現	言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたことを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。			他者理解	自分と違う意見や考えのよさを見付けることができる。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究的な活動に取り組むことができる。				
				社会参画	探究的な活動を通して、地域との関わりの中で自分のできることを見付けることができる。	探究的な活動を通して、進んで地域の問題の解決に取り組もうとする。				